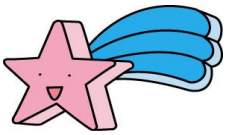
第 355 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞



とらいあんぐる

2021 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「ネズミのよめいり」

私が大学で専攻したのは心理学でした。「音楽心理学」を専門としたつもりでしたが、３０年以上前のこと、「音楽心理学」を研究する人は、あまりいませんでした。それは今も、大きくは変わっていないかもしれません。

当時は、心理学者の中で、個人的に音楽が好きな人や、趣味で楽器に触れている人が、時折、音楽を素材にして、心理学の研究をする程度でした。

大学を卒業し、大学院に進学しようという時、一時、私は指導してくれる先生を探すことになりました。

きっかけは、当時、大学で私を指導してくださっていた恩師の意見でした。

恩師であるＯ先生は、日本の心理学を背負って立っているような人で、私からすると、“神様”みたいな人でした。

スタンフォード大学で Ph.D.（日本の博士号）をとり、専門は「学習心理学」でした。

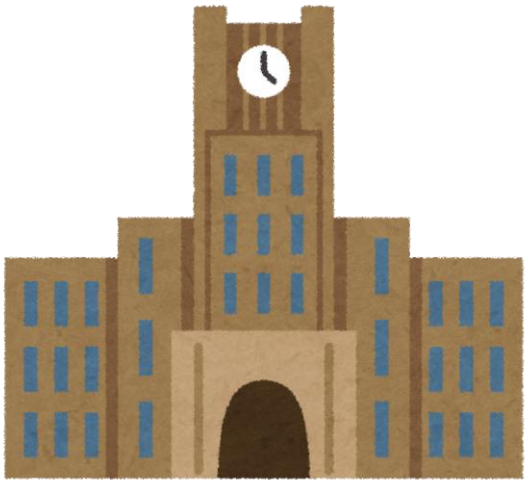
絶対音感の訓練や、音楽教育全般を科学的に整理する際、助言をいただくのに、これ以上の人はいないと思って

いました。

　ところが、私が大学院進学を考えはじめたタイミングで、突然、O先生がいうのです。

　「ぼくは、音楽心理学の専門でないばかりか、音楽について、あまりにも知識が乏しい。正直、あなたの論文の中の譜例も読み解けない。楽譜が読めないからね。今後、ぼくが指導していくことは、あなたにとって正解なのだろうか？　これはぼくがずっと考え続けていることです」

　まかせて安心と思っていた“神様”からこんなふうにいわれて、まさに青天の霹靂です。



　私はとてもとまどいました。

　でも内心、「良いチャンスかもしれない・・・」と思ったのも本当です。

　日本の心理学者でO先生を知らない人はいまぜん。顔が広いO先生の力を借りて、最高の指導教授に出会えるかもしれない、と思いました。そんな欲が出てきたのです。

　O教授は、私の顔色を読んだのかもしれません。私の背中を押すように、こうおっしゃいました。

　「ぼくは、こう見えて顔が広いからね。適任かもしれないと思う人に声をかけてみるよ。それでいいよね？」

　私にことわる理由はありませんでした。素晴らしく良いお話です。

　「よろしくお願いします！」

　大学は、家から近くて学費が安い、というだけで、よく考えずに選んでしまいました。

　ですが大学院は、よく考え、吟味して、自分の学びたいことに一番適したところに行こうと思いました。

日本中どこでも！

地の果てでも！

ところが、私の高まるやる気とはうらはらに、私の指導教授は、すんなりとは決まりませんでした。

O先生が最初に声をかけたA先生。

「私は音の知覚を扱っていますが、テーマは音声、ようは言語なんです。音楽のことはさっぱりです。B先生の方が適任かと思いますよ」

B先生は、いいます。

「A先生の推薦ですか。こまったな。私は音楽より、どちらかというと、音響が専門なんですよ。音楽だったら、C先生の方が良いと思います」

C先生は、いいます。

「いやいや、私は音楽をテーマにして論文を書いたことがありますが、たった１本です。今は別のテーマにうつってしまっています。私よりD先生の方が・・・」

D先生は、いいます。

「いや、私なんかより、E先生が良いのではないでしょうか」

ちょっとした、たらいまわしになっています。

ある日のことです。

何人目かに話がまわってきたX先生が、大学の研究室に、直接、電話をくださいました。

「あのね、私のところに話がまわってきたけれど、結論からいうと、私はお役に立てそうもありません。けれど、とても良い先生を知っていますよ。もしあなたが良ければ、私から推薦状を書いてあげましょう」

X先生は、たいへん親切な方でした。

私は丁重に御礼をいいました。

「あなたの関心をうかがうと、おそらく一番、力になってくれる先生だと思います。大学には所属していない、在野の研究者なんだけれど、非常に有名な人です」

期待で、私の胸は高鳴りました。

「あのね、江口カズコ先生って、きいたことありませんか？」

まさか、ここで母の名前が出てくるとは思いませんでした。

その後、X先生に江口寿子（カズコ）が私の母であることを告げると、先生はたいへんびっくりされました。

次に、笑いながらおっしゃいました。

「分かりにくいなあ。なんで苗字がちがうのよ？」

江口は、母の旧姓でした。母の戸籍上の名前はサカキバラで、仕事で使う名前が江口でした。私も当時、サカキバラを名乗っていて、今も心理学の仕事をする時だけ、サカキバラを名乗ります。

私が説明する間も、X先生は笑っていらっしゃいました。

「なーんだ。もうあなたのことは、誰も心配しません。さっさと家に帰りなさい」

その日、大学から家に帰る道中、私は「ネズミのよめいり」の話を思い出していました。

ネズミが、世界一立派なおむこさんを見つけようとするお話です。最初は、世界を照らす太陽をおむこさんにしようとします。

太陽に、おむこさんになってくれるようお願いすると、太陽はいいます。

「私よりもえらいのは、雲ですよ。雲は私をすっぽりかくすことができるのです。私は雲にはかなわない」

ネズミは納得し、雲のところに行って、おむこさんになってくれるようお願いします。すると雲がいいます。

「私よりもえらいのは、風ですよ。風は私をふきとばすことができるのです。私は風にはかなわない」

ネズミは、風のところに行きます。

すると風はいいます。

「私よりもえらいのは、壁ですよ。いくらふいても、びくともしない。私は壁にはかなわない」

ネズミは、壁のところに行きます。すると壁はいいます。

「私よりもえらいのは、ネズミですよ。ネズミにかじられると、私は穴があいてしまいます。私はネズミにはかなわない」

こうして、ネズミはネズミをおむこさんにしましたとさ、というお話です。

「ネズミのよめいり」の話を思いかえしながら、家路をたどっていた私は、いつしか家の玄関にたどり着いていました。

私は、ほっとためいきをつきます。

「帰ってきたのだ」と思いました。

それまでの１か月近く、たくさんの大学と、たくさんの教授のお名前が挙がっていました。挙がった大学は、北海道から九州まで、日本中に広がっていました。

私は、長い長い旅をしてきたような気分でした。

そして、安堵とともに、笑いがこみあげてきました。

家の扉をあけると、母、江口寿子が、いつものセリフをいいました。

「おかえりなさい」

（江口　彩子）

◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

５月２２日（土）より、「発表会のおしらせ」をお配りしています。まだお持ちでない方は、ピアノの担当の先生か、ショパンはうす受付に、ご請求ください。

すでに「２０２１年 ピアノ発表会 出欠希望用紙」をご提出くださった方も、多くいらっしゃいます。ご協力に、深く感謝しています。「出欠希望用紙」の提出〆切は、６月２７日（日）です。

出欠席によらず、すべての方にご提出いただきます。メールやＦＡＸでもご提出いただけます。

メールアドレス： ichionkai.piano@gmail.com

ＦＡＸ番号　： ０３－３９５７－８８６４

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

８月６日（金）・７日（土）・８日（日）・９日（月）

成増アクトホール

（東武東上線「成増」駅より徒歩１分）

大きな舞台をふむ経験は、重要です。音楽が人を魅せる芸術であることを、お子さま自身が体感できる機会になります。また、やり遂げ、大きな拍手をもらう経験は、ピアノを続ける上での大きなモチベーションにもなります（小さな部屋でピアノと向き合っているだけでは、ピアノのおけいこの意義は理解しにくいものです)。

一音会の発表会は、１年に一度です。お子さまの成長のはやさを思いますと、正直、少なすぎるかもしれません。１年、欠席してしまいますと、まる２年、発表の機会がないことになってしまいます。ぜひ、ご参加ください。

「２０２１年 ピアノ発表会 出欠希望用紙」には、参加希望日を書いていただくようになっています。４日間の開催としておりますのは、ご予定と重ならない日を選んでいただきたいためです。

それから例年、平日と土日祝日で、参加費を少し変えております。今年は、８月９日（月）が、オリンピックの関係で、振替休日になります。ですが、平日の金額とさせていただいていますので、今年の８月９日（月）は、お得です。

時間帯（部）につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうかご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

◆リハーサル・トライ動画をごらんください

今年は、新型コロナ感染防止の観点から、「リハーサル・トライ」（教室で事前におこなうリハーサル）を、「リハーサル・トライ」動画にかえさせていただいています。

当日の流れや気をつけるべきことを、ご説明しています。普段のレッスンや当日も、ご説明を重ねるつもりではおりますが、発表会当日は、とてもバタバタします。ご家庭でお時間の許す時に、動画をごらんいただいておいた方が安全です。ご協力をよろしくお願いいたします。

動画のＱＲコードは、「発表会のおしらせ」の中に、載せていますが、以下にも同じものを載せております。

モバイルをかざして、ＵＲＬ情報を取得してください。

◆一音会がテレビの取材を受けました

６月６日（日）、「うわさの東京マガジン」というテレビ番組で、一音会のことが紹介されました。

シニアの生徒さんが、番組の取材にご協力くださいました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

本当は事前に皆さんにお知らせして、番組をごらんいただきたいと思うのですが、テレビの撮影は、放映日の直前であることが多く、いつも事後的にお知らせすること

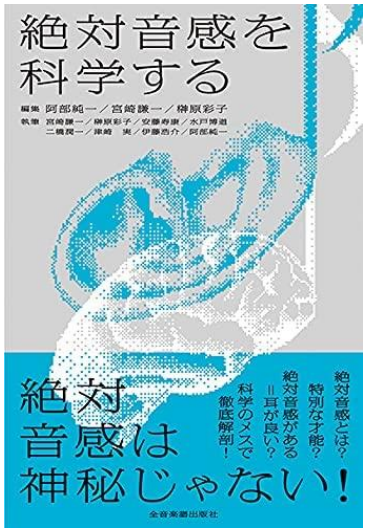
になり、申し訳ないかぎりです。

６月６日放映「うわさの東京マガジン」より

◆江口が監修、分担執筆した本が出版されました。

「絶対音感を科学する」という本が、５月１５日、全音楽譜出版社から出版されました。江口（榊原）彩子他、数人の心理学者が、絶対音感を科学的にひもとく、という試みです。

「ショパンはうす」に見本を置いておりますので、ご興味がある方は、ぜひお手にとってください。



◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、７月２７日（火）の８月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆時節のご挨拶など ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただいております。どうぞご理解のほど、お願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後７時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。